

＜参考資料＞協働・共創による環境基本計画推進の記録

1 平成19年度開催実績

6月25日 第1回庁内会議

7月9日 第1回推進委員会&第1回社会、第1回生活、第1回廃リ部会

7月27日 第2回推進委員会&第2回社会、第2回生活、第2回廃リ部会

8月7日 第2回庁内会議

8月28日 第3回廃リ部会（任意）

9月5日 第3回生活部会（任意）

9月27日 第3回推進委員会&第3回社会、第4回生活、第4回廃リ部会

10月11日 第3回庁内会議

10月24日 河川プロジェクト準備会

11月2日 第4回推進委員会&第4回社会、第5回生活、第5回廃リ部会

12月17日 第6回廃リ部会（任意）

12月20日 第6回生活部会（任意）

1月24日 第5回推進委員会&第5回社会、第7回生活、第7回廃リ部会

2月12日 第8回生活部会（任意）

2月21日 第8回廃リ部会（任意）

2月28日 第1回河川プロジェクト（任意）

3月6日 第9回生活部会（任意）

3月27日 第2回河川プロジェクト（任意）

2 委員会等の検討内容

6月25日 第1回庁内会議

- 辞令交付、市長あいさつの後環境基本計画と庁内会議の役割について説明
- 環境基本計画資料編の提案事業について
次回までに各担当課で実施の可否を検討し、実施可能な事業は
 - ・市単独実施／市民等と協働実施
 - ・2年以内を着手目標（短期）／3～5年（中期）／6～8年以内（長期）に分類する事になりました。

7月9日 第1回推進委員会&第1回社会・第1回生活・第1回廃り部会

- 委嘱状交付、市長あいさつ
- 委員の指名推薦によりNPO代表の村瀬委員が委員長に選任されました。また、委員長の指名により、企業代表の江本委員、古橋委員、野田委員が副委員長に、さらに野田副委員長が職務代理者に選任されました。
- 環境基本計画の概要、推進委員会の役割、庁内会議との連携等について説明
- 千頭アドバイザー（日本福祉大学教授・情報社会学部地域環境計画）司会で、「東海市の好きなところ」「最近感動した事」を交えた自己紹介
東海市の好きなところでは、
 - ・バランス良くこじんまりとまとまっている、都会でも田舎でもないところ
 - ・意外と緑が多い（質は良くないという反対意見もありました）という意見が多く聞かれました。
最近感動した事は
 - ・初孫の誕生
 - ・朝採りのトウモロコシがおいしい
 - ・子ども達の笑顔など皆さんそれぞれ発表されました。
- 事前の希望調査に基づき、
 - ・社会環境部会（基本計画 柱1社会環境を担当）
 - ・生活環境部会（基本計画 柱2生活環境、柱4共通基盤を担当）
 - ・廃棄物・リサイクル部会（基本計画 柱3廃棄物・リサイクルを担当）の3部会に分かれ、各部会の範囲の中で特に重点的に検討する分野を絞るためのグループワークを開催しました。
- 社会環境部会
分野A大気・ばいじんに最優先で取り組みたいという意見が多く、他に分野B水質について取り組みたいという意見もありました。
- 生活環境部会
自然観察を行っている委員は分野E自然、河川清掃活動をしている委員は分野G環境美化、環境関係の仕事に携わっている委員は分野K地球に組みたい、と意見が分かれました。
- 廃棄物・リサイクル部会
市民と一緒にごみを減らせる方策をさぐりたいという意見から、分野を絞る前に勉強する必要があるという結論になりました。

7月27日 第2回推進委員会&第2回社会・第2回生活・第2回廃リ部会

○委員長あいさつの後、千頭アドバイザーから本日のタイムスケジュール説明とアドバイスがありました。アドバイスは

- ・来年度から実施するためには遅くとも今年中に事業概要まで決める必要があるので、なるべく早目に重点分野を決定しましょう
- ・新規事業を検討する際は、基本計画の提案事業とはなるべく重複しないようにしましょう
- ・重点分野の決定が難しい場合は後日各部会で集まれば良いので、無理して今日中に決めなくても大丈夫です

というものでした。

○グループワーク

●社会環境部会

- ・東海市最大の問題は大気・ばいじん
 - ・市民と一緒に環境を創っていくのであれば、水質が最も適している
- という2点で委員の意見が一致しました。大気・ばいじんは「最大の課題ではあるが、市民と一緒に取り組むのが難しい」ため、部会としては
- ・長期的には大気・ばいじん、短期的には水質に取り組む
 - ・水質はモデル地区の選定、えひめA I - 1の活用、他地域の成功例や取り組みを研究する

という結論に至りました。

●生活環境部会

- ・市民が最も参加できるのはどの分野か、という観点が大切
- ・ごみ拾いなどやり易いものから取り組んでは

などの意見の中から、「将来を決めるのは子ども達。子ども達が楽しんで活動でき、将来について考えられるようにする事が大切」という意見に全委員が賛同し、環境学習・人づくりを重点分野に決定しました。

●廃棄物・リサイクル部会

ごみの収集から最終処分までの流れとごみ処理コスト、資源の品目別リサイクルコストについて事務局が説明。

レジ袋の有料化、生ゴミの堆肥化、枝木のチップ化、ごみの個別収集、リサイクル商品の利用率向上などについて検討し、リサイクル・適正処分を重点分野に決定しました。

○各部会の検討結果を発表

○千頭アドバイザーからのアドバイス

- ・社会環境部会→大気・ばいじんは協働で取り組むのは難しい問題であり、当面は水質に取り組むとしたのは妥当。ただし、えひめを使った河川での対策よりも家庭や工場などの発生源対策が重要なのでそこを意識して議論を進めてください
- ・生活環境部会→環境学習は全部の分野に係わってくる問題であり、他の部会とも連携しながら進められると良い。親子で参加できて、親子間の対話を促すような講座を様々な人と一緒に開催できるような工夫が重要
- ・廃棄物・リサイクル→ごみの発生抑制やリサイクルなど、企業の意識は随分進んでいる。企業と一緒にできる事、企業の取り組みから参考にできる事を探してみてもどうか

8月7日 第2回庁内会議

○環境基本計画提案事業の検討結果の説明と質疑

- ・基本計画の協働事業、企画政策課の市民委員会、市民協働課の外部委託は市民との協働という共通点があるが、予算積算や協働の手法が違うため混乱を招きかねない。基本となる考え方を合わせる必要がある
- ・今年度若しくは来年度に事業を実施する場合、時間的余裕はあまり無い
- ・来年度の実施に向け、実施計画で枠を確保する必要があるのではなどの意見がありました。

8月28日 第3回廃り部会（任意）

○清掃センター施設見学、容器リサイクル法解説の後グループワーク

- ・資源回収方法を知らない人のためのPRの工夫
 - ・子どもの頃からの分別の教育
 - ・より良い資源回収方法の検討
- などがテーマとして提案され、次回までに「利便性」や「市民協働」の観点から望ましい資源回収方法を各委員で検討する事になりました。

9月5日 第3回生活部会（任意）

○ガスエネルギー館見学、燃料電池車試乗の後グループワーク

- ・企業の環境対策を見学したら勉強になるのでは
 - ・市のウォーキングコースを親子で歩き、ごみの不法投棄や自然の状況などを記入する「気になるマップ作り」などはいかがか
 - ・環境学習の開会式を兼ねた講演会を実施してはどうか
- などが議論されました。

9月27日 第3回推進委員会&第3回社会・第4回生活・第4回廃り部会

○委員長あいさつの後、千頭アドバイザーから本日のタイムスケジュール説明とアドバイスがありました。アドバイスは

- ・来年度から実施するためには今日事業の概要を決めるのが望ましい
 - ・近いうちに市の会議があるので、その参考になるようなるべく具体的な議論をしましょう
 - ・どれだけ予算が付くか分からないが、頑張っている事業を提案できれば来年から形になるので頑張りましょう
- というものでした。

○グループワーク

●社会環境部会

- ・えひめA I - 1を使用した河川浄化に取り組む
- ・船島小学校や地元NPOの活動が活発な上野新川をモデル地区に
- ・えひめA I - 1の一次培養液を購入し、市で2次培養して増やして配布する方法がコスト的には低く済む
- ・予算化に向け、えひめA I - 1の二次培養等について業者や他自治体へのヒアリングを進める
- ・事業名称を「河川・ため池の水質浄化事業」とする

9月27日 つづき

●生活環境部会

最初に部会長から「産業コース」と「自然コース」の2つにコース設定してはどうか、という提案があり、それに沿って検討していく事になりました。

△産業コース

- ・愛知製鋼、中京コカコーラなど受け入れ可能な企業を組み合わせる
- ・スタンプラリー方式
- ・夏休み、冬休み、春休みなどに実施

△自然コース

- ・募集方法をどうするか。最初に通しで募集するか毎回募集するか
- ・当面は今の部会メンバーで運営し、次年度以降は講師養成プログラムなども検討していく

△全体

- ・初年度はあまり欲張らず2ヶ月に1回開催のペースで
- ・全体の名称を「東海市エコスクール」とし、産業コース、自然コースそれぞれ数回開催する

●廃棄物・リサイクル部会

- ・分別違反やマナー向上のためには個別収集が有効ではあるが、コスト等の面から難しい
 - ・2,000ある集積場所での分別の徹底や監視指導を図ってはどうか
 - ・資源の回収率を上げるためのPRや回収方法の見直しが必要では
- という意見から、

- ①市民リサイクル率向上事業（ごみ、資源の排出指導強化、各種媒体を活用したPR、市民による「ごみ集積場所見守り隊」結成、分別回収の常設場、拠点場の増設検討など）
 - ②レジ袋削減事業（レジ袋の有料化、マイバッグ持参の呼び掛け、マイバック作り講座などの普及策、エコポイントの検討など）
- の2事業を決定しました。

10月11日 第3回庁内会議

○基本計画の提案事業検討結果について説明と質疑

第2回で結論の出なかった事業の報告と前回報告部分の修正を行いました。ここで「協働」&「短期」に分類された事業は、推進委員会において実施するかどうか検討する事になります。「単独」&「短期」に分類された事業は20年度に向け各担当課で予算を要求していきます。

○職員提案について

企画政策課が「未来につなぐ 美しいふるさと東海」をテーマに職員から募集していた事業案の結果を発表しました。採用された事業は各担当課で予算化に向けた検討をしていきます。

○推進委員会プログラムについて

各部会で検討してきた4事業について説明、質疑。
質疑の結果、東海市エコスクールで8月に予定している産業コースを観光協会の親子産業見学会と協働で実施しては、という意見がありました。また、他事業については、事業効果などで厳しい意見が出たものの実施事業として採択されたため、部会で事業案を修正する作業と並行して担当課で予算要求していく事になりました。

10月24日 河川・ため池の水質浄化プロジェクト準備会（任意）

○グループワーク

- ・えひめA I-1を使用した河川浄化の費用対効果
 - ・生態系の保全も視野に
 - ・水質が悪い名和町の新池も対象にしては
 - ・第1目標は「水をきれいにする事」
- などが協議されました。

11月2日 第4回推進委員会&第4回社会・第5回生活・第5回廃り部会

○委員長あいさつの後、事務局から10月11日庁内会議の結果を報告しました。千頭アドバイザーからは

- ・厳しい意見を否定するのではなく、前向きに受け止めて議論しましょう
 - ・事業の内容が絞られてきた部会では、事業実施の入り方、第1段階のステップを考えましょう
- というアドバイスがありました。

○グループワーク

●社会環境部会

「川だけではなく全体の環境向上に取り組もう」という意見があり、会議途中で上野新川と上流の富木島大池、真池（まいけ）を視察しました。

- ・上野新川は葦で覆われている所が多く、ミシシippアカミミガメが多く見られる
- ・富木島大池は水が緑色で淀んでいる。少量の水がオーバーフローして真池へ流れ込んでいる
- ・真池はボタンウキクサと葦で一面が覆われている。ウシガエルのオタマジヤクシが見られた

という状況でした。事業を通して目指す姿として

- ・子どもが川遊びできるきれいな川

が決まり、そのために

- ・えひめA I-1にじゃかご、竹炭等を加えた水質浄化実験
- ・水質と生物の実態調査による現状把握と効果測定
- ・外来生物の除去

を実施していく事になりました。

●生活環境部会

エコスクールを親子産業見学会と合同で実施する事について、

- ・環境学習としての効果が下がるのでは
- ・東海市の企業にこだわった方がいいのでは

という意見があり、事務局と観光協会で調整する事になりました。

また、開校式（講演会）の講師依頼先について何人か候補があがり、予算についても実施する際のイメージと結びつけた案を作りました。

●廃棄物・リサイクル部会

庁内会議での意見を参考に各事業展開について検討しました。

△市民リサイクル率向上事業

- ・「見守り隊」は地域住民の自発的活動を促すモデル的な事業となるように
- ・地域説明等を実施し、地域の実情に即した啓発や取組みとする
- ・市民全体への分別PR方法を強化する

11月2日 つづき

△レジ袋削減事業

- ・エコポイントとレジ袋有料化の同時進行は困難であり、有料化を優先して推進していく
- ・様々な方策で市民への啓発、事業者の協力促進に取り組んでいく

○基本計画の提案事業についての説明

基本計画の提案事業のうち、庁内会議において「協働」&「短期」に分類された事業について事務局から説明しました。当面は各部会で議論している事業に集中したいという意見もあり、具体的な議論については次回の推進委員会で行うことになりました。

12月17日 第6回廃り部会（任意）

○プロジェクトについての検討

部会員5人に消費者の代表、中間処理業者、再商品化業者を加えプロジェクトチームを構成する事になりました。また、2事業それぞれで市民、関係事業者、行政などで構成する協議会を設置し協議する事になりました。

△市民リサイクル率向上事業

- ・モデル地区の決定
- ・資源化に適さないプラごみの混入を防ぐための協議会の進め方検討

△レジ袋削減事業

- ・キャンペーン、講座等の詳細と協議会の進め方について協議
 - ・レジ袋の有料化とポイント制度の問題点の整理
- などを行いました。

12月20日 第6回生活部会（任意）

○エコスクールについての検討

△開校式

講師の第一候補に、知名度があり子どもに人気があるジョン・ギャスライト氏の名前が挙がりました。会場は、アクセス、周辺環境から市役所の地下大会議室に、開催日は4月20日又は13、27のいずれかになりました。

△産業コース

工作などの参加型講座ではなく企業見学に絞る事になり、

- ・8月は観光協会と合同で愛知製鋼と中部国際空港
- ・12月はコカコーラと東邦ガスを見学

という内容に決まりました。

△自然コース

社会環境部会とのタイアップも視野に入れつつ次の内容に決まりました。

- ・6月は自然のしくみについての講演と観察で、自然の基本を学び考える
- ・10月は上野新川と船島小学校ビオトープの周辺環境を体験する
- ・2月はネイチャーゲームと工作で自然の大切さとおもしろさを知る

△全体

- ・受講生の申し込みは、講座毎にその都度受け付ける
- ・市民主体で事業を進めるためには、しっかりした事務局が必要。その人件費を確保できないと今後は難しくなってくる

1月24日 第5回推進委員会&第5回社会・第7回生活・第7回廃り部会

○委員長あいさつの後、成果指標の決定

基本計画の中で指標の決まっていなかった「H交通 ⑫環境に配慮してマイカーの利用を工夫している市民の割合」、「L環境学習・人づくり ⑳環境に関する行事に参加している人の割合」について事務局から説明。

「高すぎる目標は意味が無い。実現可能性のある目標を」という委員の意見から、

⑫現状値 44.5%→5年後目標 50%→10年後目標 55%

⑳現状値 26.2%→5年後目標 30%→10年後目標 35%

という目標が設定されました。

○基本計画の提案事業について

「協働」&「短期」事業について、事業実施の可否と来年度以降の検討の優先順位付けを行いました。

●社会環境

降下ばいじんに関する企業と市民の情報公開・交換の場を設ける、同じく降下ばいじん対策として駐車場の舗装促進の2事業が採用されました。エコドライブの普及啓発と住宅地域を走行する車の騒音対策は行政での対応となり推進委員会では採用されませんでした。

●生活環境&共通基盤

子どもが中心となった水辺の清掃・生物調査等の活動、エコマップの作成はエコスクールの中で取り組んでいく形で採用されました。子ども中心のゴミゼロ運動、LOHASの普及も優先順位は低いものの採用です。環境家計簿10,000世帯計画は家庭への負担と効果を考慮して、花と緑のふるさとの道事業は行政が長期的に取り組む課題としてそれぞれ不採用になりました。

●廃棄物・リサイクル

小さい頃からのもったいない教育が採用され、現状の把握・整理のため平成20年度に調査を実施する事になりました。

●千頭アドバイザーからのアドバイス

- ・降下ばいじんの情報公開、交換は市民の関心が高いので、企業にも市民にもどのように働きかけるか慎重に検討しましょう
- ・駐車場対策については、公害防止協定などを活用する方法もあります
- ・水辺の清掃、生物調査やエコマップの作成だけでなく、エコドライブやもったいない教育もエコスクールと連携して実施する事を検討しましょう

○グループワーク

●社会環境部会

えひめA I-1は培養装置などの初期投資が大きく予算的に難しい情勢になっているため、培養装置が比較的簡単で同じ効果が期待できるえひめA I-2を活用していく事になりました。今後は

- ・市民で製造してもらうためのルール作り
- ・埼玉県旧芝川地区の視察
- ・試行対象地域での説明会
- ・ボタンウキクサの除去検討

などを進める事になりました。

●生活環境部会

4月20日エコスクール開校式の広報の方法について検討しました。また、

- ・各団体のパネル展示ブース設置
- ・ジョン氏講演の後にミニ自然観察会、ミニネイチャーゲームを実施

1月24日 つづき

などが決まり、開校式の概要案がほぼ固まりました。

また、エコスクール全体のパンフレットの内容についても検討しました。

●廃棄物・リサイクル部会

△市民リサイクル率向上事業

市民に対する啓発の方法などを検討しました。

△レジ袋削減事業

2月に大手スーパー等と情報交換会を実施する旨を報告した後、マイバッグの進め方や課題を検討しました。

●千頭アドバイザーからのアドバイス

- ・河川ため池事業について、えひめの使用も大事だが、市民の意識改革を忘れずに。また、他地区の失敗例を分析し、なぜ失敗したのか学びましょう
- ・エコスクールはいろいろな内容を取り入れて、多くの人に参加できる大きな器にしましょう
- ・リサイクル事業は、もったいない教育と関連を持たせて進めましょう
- ・レジ袋事業は、ドラッグストアの参加、開始時期、近隣市との調整、市民の認知度・関心度の向上に気を配りつつ進めましょう

2月12日 第8回生活部会（任意）

エコスクール開校式と産業コース、自然コースの細部を詰める作業です。

- ・エコスクールの校長依頼先を千頭アドバイザーに決定
 - ・開校式のチラシ、エコスクールのパンフレットへの記載内容
 - ・パネル展示ブース、ミニネイチャーゲーム等の詳細確認
- などを検討しました。

2月21日 第8回廃り部会（任意）

愛知県、市の職員と市内の大規模小売店が集まり意見交換会を行いました。

各店舗それぞれでポイント制などの取り組みを進めていますが、有料化は影響が大きいと、市域で足並みを揃えて実施していく必要があります。市には積極的な啓発と各店が参加できる枠組みづくりを求める声が多くありました。

2月28日 第1回河川プロジェクト（任意）

社会環境部会の委員に他部会の委員4人と青年会議所（JC）の会員2人が加わり、「河川・ため池水質浄化事業プロジェクトチーム」初の会議です。

JCはえひめA1-2を使った河川浄化の取り組みに賛同し、平成20年6月14日にえひめA1開発者の曾我部氏を招いた講演会を開催するとの事で、プロジェクトチームとしてどのような協力体制が取れるか検討しました。

モデル地区での事業については、

- ・ため池の浄化実験のため、名和町の新池をモデル地区に追加
- ・市民の目を川や池に向けさせるための工夫
- ・人が集まるイベント

などを検討しました。

3月6日 第9回生活部会（任意）

産業コース、自然コースの日時、内容、担当者などを決定しました。

また、千頭アドバイザーにエコスクール校長への就任を快諾いただいた事を報告した後、開校式パネルブースへの出展依頼先など詳細について詰めていきました。

3月27日 第2回河川プロジェクト（任意）

旧芝川地区の視察結果を報告し、製造方法や取り組み状況などを確認しつつ東海市での事業の参考としました。

その後J C主催の講演会等について意見を出し合い、市主催のリサイクルフェアでは市が作成したえひめA I - 2を、J Cの講演会ではJ Cが作成したえひめA I - 2を配布していく事などが決まりました。